

H28.8月から9月にかけての大雨災害に関する検証

機関名：北海道開発局

1 今回取った主な活動状況（自由記載）

北海道開発局においては、8月の大雨及び台風等における災害対応として、直轄施設への災害対応及び応急復旧のほか、自治体等への TEC-FORCE（リエゾン含む）及び災害対策車等の派遣、物資・資機材等の支援も行ったところ。

特に、8月20日からの大雨については、26市町村（道含む）にリエゾン延べ190名、16市町村に TEC-FORCE 延べ282名の派遣を実施、また、台風10号においては、17市町村（道含む）にリエゾン延べ164名、TEC-FORCE を、関東・四国・中国地整からの応援も含め、8市町村に延べ866名の派遣を実施した。

リエゾンにおいては、自治体との情報収集、情報提供及び支援要請の確認。TEC-FORCE においては、応急対策、技術的指導及び激甚災害指定に寄与するための早期の現地調査を実施した。さらに災害対策車においては、防災ヘリによる上空からの被災状況調査、排水ポンプ車による応急復旧活動、衛星通信車による現地被災箇所の映像配信、散水車（給水機能付き含む）による道路清掃及び給水支援を実施した。

物資・資機材等の支援については、非常食、簡易トイレ及び河川防災備蓄ブロック等の資材の提供を行った。

（裏面へ続く）

2 個別事項（行が不足する場合は、適宜、行を追加願います。）

項目	発生時点	事実関係	課題	対処方法の方向性
情報収集	H28.8.20～	避難勧告、避難指示及び土砂災害警戒情報等が発表された自治体を中心にリエゾン派遣し、情報収集を行った。	リエゾンを通じて収集した情報の効率的な情報共有。	防災情報共有システムの利用拡大。
物資・資機材の支援	H28.8.20～	（物資・資材）自治体へ非常食、簡易トイレ、飲用水及び河川防災備蓄ブロック等の支援を行った。 （災害対策車）防災ヘリ、排水ポンプ車、衛星通信車、散水車（給水付き）及び分解組立型バックホウなどを派遣した。	（物資・資材）自治体からの的確な要望確認。 （災害対策車）防災ヘリにて、撮影したデータの共有方法。 出動が長期化・広域化した場合のオペレーターの確保。	（物資・資材）リエゾンのスキルアップ。 （災害対策車）防災情報共有システムの効率的な活用。 協定を活用した円滑な体制づくり。
災害対策本部の体制と活動	H28.8.20 22:20～	北海道開発局においては、H28.8.20に災害対策本部を設置。 （現在も継続中）		
広報・情報提供	H28.8.20～	直轄施設に係る被災状況及びTEC・リエゾン派遣に伴う対応について広報を実施。	効果的な広報手段	広報のタイミング及び資料の工夫（数値化・写真など）